

学校コラボレーター通信 No.20

平成26年7月15日 山県市教育委員会生涯学習課

「学校コラボレーター」事業は、平成20年12月にスタートした「学校支援地域本部」事業から数えて7年目を迎えました。この間、23年度には文部科学大臣表彰、昨年度は県の教育長表彰を受けました。平成25年度の学校コラボレーター事業は、614件、延2798人の皆さんに活動していただきました。コラボレーターの皆さんの活躍で、子どもたちの笑顔をいっぱい見ることができました。今年度も、学校教育の充実及び地域コミュニティづくり、地域の教育力の再生に貢献することをめざし取り組んでいきます。

平成26年度 学校コラボレーター研修会 参加者：120名 平成26年6月3日 19時30分～21時 山県市美山中央公民館ホール



今年度の研修は、学校コラボの皆さんをはじめ、地域教育協議会委員を兼ねている学校評議員や教職員、保護者の皆さんの参加をいただき、充実した会になりました。

1 講話 「三つの変化」 教育長 森田正男

(1) 教育委員会制度の変化

国会で以下のことが審議されている。

- ① 教育長と教育委員長を一本化した新たな責任者(新「教育長」)を置くこととし、首長が議会の同意を得て任命・罷免する。
- ② 首長が主宰する総合教育会議を設置する。

(2) 学校の変化

- ① 基礎学力のいっそうの定着
- ② グローバル化教育 小学校に英語科設置を検討
- ③ 道徳を教科にする検討
- ④ 土曜日授業の実施(伊自良地区で試行)

(3) 地域の変化

地域総がかりで、子ども、学校の応援団になってもらいたい。地域と共にある学校、地域と共に動いていく学校、そうしていかないと本当にたくましい子どもは育たない。新しいコミュニティ、校区を地域とした、新しい地域づくりをしたい。その意味でコラボ事業をいっそう充実させたい。

2 学校コラボ実践発表 大桑小学校

谷端良夫校長先生から『地域とともにある学校づくり』と題して、大桑小の取組が紹介されました。3つの分野で地域の多くの方の世話になっていると話されました。

- (1) 「安心」分野 地域の見守り
- (2) 「学び」分野 読み聞かせ 教科 総合的な学習
- (3) 「イベント」分野 開校記念行事 かしの木フェスティバル

教育長の講話「地域総がかりで、子ども、学校の応援団に」がすでに具現化されている発表内容でした。

3 学校コラボ実践発表 劇 「いじめ防止」

「更生保護女性会」は、非行や犯罪をなくし、過ちを犯した人たちの立ち直りを支援する全国的なボランティア団体です。山県市でも積極的な活動を展開されています。今回、その一環として大桑小で行われた「いじめ防止」の劇を発表していただきました。12名の会員の熱き思いが伝わってくる劇でした。

大桑小学校の教育 「地域とともにある学校」

方針・内容 (協議・理解)

- 学校評議員会
- 会同地区懇談
- 地域協議会
- PTA会議
- 学園との交流
- リーダー会

安心 (理解)

- 見守り活動
- 環境整備
- 人権教育

学び (理解)

- 読み聞かせ
- 大桑の歴史
- 大桑の農業
- 福祉等

イベント (理解)

- かしの木フェスティバル

学校コラボレーターのみならず、関係機関・団体のみならず、名人、スペシャリスト

支援協力 協働



ふるさとを学び、育つ 県「ふるさと教育表彰」受賞 いわ桜小学校



4月17日、いわ桜小では、ふるさと学習の一環として「民話の里めぐり全校遠足」を行いました。今年度は葛原方面へ出かけ、乳児の森では、『お話しろりばた』の皆さんから、ふるさとの民話を聞きました(写真①)。また、篠座神社では、地元の方から葛原太鼓の由来を聞きました(写真②)。

このふるさと学習は、美しい自然が豊かで、伝統文化が今なお継承されている地域のよさ・価値に気づき、いわ桜の地に住んでいる誇りを持ってほしいという願いで、長年にわたって実践してきたものです。その主な活動は、

- ・イワザクラの保護活動(種まき～植栽)(写真③)
- ・葛原太鼓の伝承活動(写真④)
- ・アマゴの孵化・飼育・放流(写真⑤)
- ・北山茶の茶摘み・茶揉み(写真⑥)
- ・化石(写真⑦)・水生生物(写真⑧)・環境学習

などです。全ての活動に、地域の方や各種団体の皆さんの支援をいただいています。ふるさと学習は、子どもの成長とともに、イベントへの参加などで地域の活性化の一助となっています。

成果が認められ、岐阜県教育委員会から平成23・24年度には、岐阜県ふるさと教育表彰「推進賞」を、25年度には「優秀賞」を受賞しました。

ふるさとの鳥羽川から学ぶ 高富中学校



土曜日午前、鳥羽川では、たもを持ち水に入る中学生の姿をよく見かけます。高富中生物部の生徒たちです。創部2年目の新しい部ですが、ふるさとの川、鳥羽川をフィールドワークの場にし、34人が活動しています。魚類、貝類、水生昆虫など多くの生き物を観察しています。中には絶滅が危惧されている貴重な生き物もいます。小さな命との出会いから、ふるさとの自然の大切さを学んでいます。

火、水、木、金曜日には、理科室で観察や記録作業をしています。顕微鏡を覗くことで微生物の生命の営みにもふれ、ミクロの世界を実感します。

活動は、「調べる」だけでなく、「まとめ」「伝える=発信」を重視しています。鳥羽川で採集した生き物のポスターを季節ごとに作成し、市役所などに掲示しています。また、『アースレンジャー子ども会議』や『子どもエコクラブ交流会』で、取組を発表しました。

ふるさとの自然の素晴らしさ、命の大切さを広めたいという願いで、観察した生き物の写真を学校のホームページで紹介しています。

後記 かつて学校は地域の中心でした。子どもを中心に人が集い、交流の輪が広がり、様々な活動が行われていました。山県市は、その土壌を生かして、新しい学校や地域づくりをめざしています。時代は変わっても子どもが未来を作っていくことに変わりはありません。コラボ活動にいっそうのご協力をお願いします。